

第 1 回検討会における活用に関する主な発言（抜粋）

教育的・文化的な活用に関する発言

現地での活用

- ・「国分寺崖線の中における横穴墓群」について、写真や背景などの解説を付け加え、それを見た人がそこに思いを馳せることができるような活用がよい。
- ・郷土の歴史に興味や関心を持ってもらうため、国分寺崖線に横穴墓が多く作られる意味や学術的な比較研究などを噛み砕いて後世に伝えるような活用をすれば、価値が出てくる。
- ・喜多見や国分寺崖線の歴史を語るうえでは、横穴墓群に関連する集落などの解説も含め展示や情報発信が必要である。

出土品の活用

- ・出土品も公表するべきだが、セキュリティ上、レプリカが良い。
- ・勾玉や刀などの副葬品が他の遺跡でも見つかることなどを集約し、比較して、説明される博物館などがあると良い。

3Dデータの活用

- ・3Dで体感ができるという利用の仕方が現実的かつ魅力的である。
- ・立体眼鏡をかけてバーチャルな世界で体験する活用方法は、教育的な観点からも十分可能性がある。

教材としての活用

- ・ICTを活用し、インターネットミュージアムに取り込むと良い。
- ・ICTの世界では大きさの感覚を伝えることには限界があるため、横穴墓群の大きさの感覚を伝える工夫も必要だ。
- ・写真なども区や外環事業者のホームページで発信するのも良い。地域の方が誇りを持ってれば郷土への愛着や小学生の良い勉強にもなる。
- ・小学生の地域を知る教育の時間などにおけるソフト面での活用もある。
- ・換気塔は最新の設備である一方、脈々と受け継がれてきた伝統のような物がある中で、それらを絡めて展示するような発想は重要である。その際に土の性状などの要素を入れると、教育的な活用という点ではなお良い。

地域のための活用に関する発言

地域での展示解説などの活用

- ・外環事業への土地提供者を慮って、地元で展示することも考えたい。
- ・郷土資料館ではなく、例えば喜多見小学校、上部利用で作られる公園内など地元で展

示するのが良い。

- ・周辺街づくりや上部空間等の検討の一環として、展示施設を設け、地域の小学生に見せられると良い。
- ・区内の国分寺崖線にあった 144 基を比較対照した解説などが地元にあると良い。
- ・横穴墓群や出土品の区内や日本全体での位置付けを幅広く、解釈を加えて、地域の皆さんが簡単に手に取れるように活用する。

地域振興としての活用

- ・横穴墓群周辺の地層や地質などの情報に当時の文化面の解説を加えれば、子どもたちの教育的興味だけでなく、学校教育とは少し違った観点での幅も出てくる。
- ・例えば横穴墓せんべいや幟のように、町おこしなどに繋げる活用方法もある。
- ・最近、周辺に農業公園ができた。横穴墓とうまく繋げて町おこしを感じている。
- ・都市緑地計画学的なみどりの街づくりの観点から、外環の上部利用空間は例えば横穴墓をモチーフにした壁面や空間作りにより、分断される地域を繋げる空間になると良い。その際、維持管理を考え、収益をあげる仕掛けをセットで考えるのも大事になる。
- ・ランプなどに横穴墓を表示すれば、名物なジャンクションになり集客に繋がる。

その他の活用に関する発言

施設整備に付随させる活用

- ・外環事業で建設が決まっている施設などに横穴墓に関連するデザインなどを取り入れることで、追加の施設整備の費用を抑えられる。
- ・大橋ジャンクションの天空庭園などの発想を検討する価値がある。
- ・このジャンクション内に横穴墓があったとわかるように、ランプの壁面等に 15 基の横穴墓をプリントして表示できると良い。維持費も不要なので展示の仕方としては良い。
- ・発掘された物を何らかの形でその場で展示する例が多い。

ソフト面での活用

- ・歴史を後世に残すため、ジャンクションの名称に殿山横穴墓群を使うと良い。
- ・外環供用後のリーフレット等に副次的な成果として入れると良い。

事業のPRへの活用

- ・このジャンクションが東京のゲートウェイになるという観点から、外環事業において横穴墓群を有効に活用することで、非常に発信力のある事業となる。
- ・外環事業は技術的に価値のある工事だということをもう少し市民にアピールすると良い。遺跡だけでなく現代の土木史、土木技術をアピールするアイデアを事業者から出すと良い。